本気
ばーじょん

阪大坂はどこからどこまで!?

2011/03/12-13
石橋曖昧計量学会

◆目的◆

石橋から阪大につながる長い坂道、通称「阪大坂」。

阪大坂は様々な人に利用されており、阪大生や地域の人にとって色々なイメージを抱きうる対象となっている。

「阪大坂」はランドマークがないと言われる阪大において、ランドマークになりうる存在なのではないだろうか？

本研究では「阪大坂」がどの程度重要なのか、また、「阪大坂」という共通概念が存在するのかどうかを調査し、「阪大坂」の認知度やランドマークとしての可能性を検討した。

◆方法◆

どこからどこまでが阪大坂だと思うか、下端と上端を19枚の写真の中から選択させた。

(1) Webアンケート

◆期間： 2011/02/12～20 の9日間

◆回答者： 143名（一般12名、教職員2名、学部生101名、院生28名）

◇性別や年齢、阪大歴、所属など属性の情報がある。

(2) 店頭アンケート

◆期間： 2011/02/23～25 の3日間

◆場所： くるる石橋（石橋商店街内）

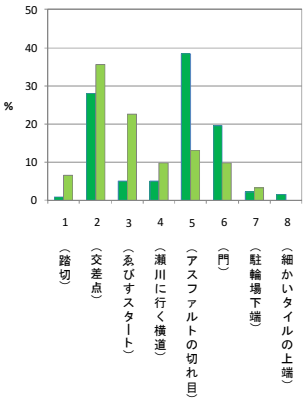
◆回答者： 31名

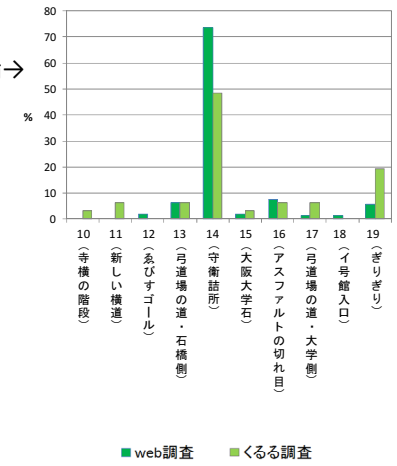
◇属性の情報なし。

◆結果◆

(1) 分布

↓下端　　上端→

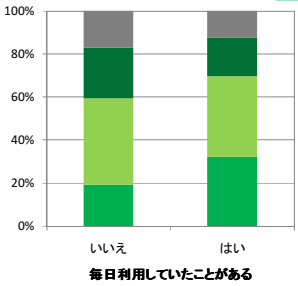




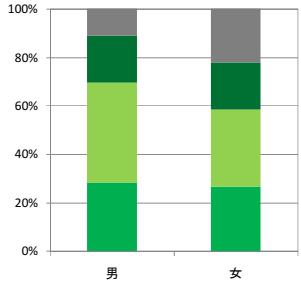
どこからどこまでを「阪大坂」と感じているかは、人によってさまざま。

下端はアスファルトとタイルの切れ目（公道と私道の境）、交差点、門の順に多い。上端はほぼ一致。

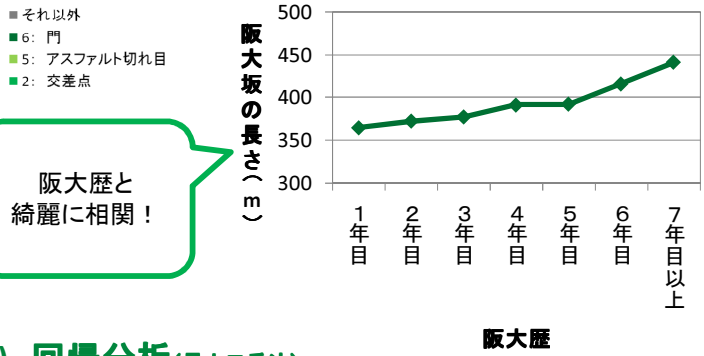
(2) 属性との関係



男女差はなさそう



毎日使っていると交差点を選びがち



阪大歴と綺麗に相関！

(3) 回帰分析（最小二乗法）

被説明変数：選択肢から算出した距離（m）

毎日利用ダミー・・・毎日利用していた経験があると1、それ以外は0
男性ダミー・・・男性は1、女性は0

変数	係数	p値
定数項	360.60	[0.000]***
毎日利用ダミー	24.87	[0.059]*
阪大歴	10.87	[0.004]***
年齢	−0.88	[0.403]
男性ダミー	−11.30	[0.407]

◆阪大歴が正に有意
・・・阪大歴が長くなると阪大坂は長くなる

◆毎日利用が正に有意
・・・毎日利用した経験があると阪大坂は長くなる

（おおよそver.の式は上記の推定値を利用）

◆考察◆

各人の思う「阪大坂」には予想以上に幅があった。

それには、阪大歴が影響しており、阪大に長くいる人ほど阪大坂を長く定義していることが明らかになった。

阪大で長く過ごすと、「坂下で集合」を経験する回数も増え、その際の会話やノンバーバルなやり取り、または機能的な観点から、「交差点までが阪大坂」という共通概念が形成されていくことが示唆される。

また、毎日利用していた経験がある人ほど、阪大坂を長く定義していることや、地域の方のほうが阪大坂を長く考えていることから、思い入れの大きさや親近感が阪大坂を長くさせているのではないかとも考えられる。